

「日本学童保育学会」（仮称）準備会への参加を呼びかけます

今日、放課後・学校休業日に「保育に欠ける」子ども（小学生）を対象とした学童保育は、共働き・ひとり親世帯の親と子にとって不可欠な社会制度として認知されつつあります。学童保育の事業数も急増しており、1988年には6,100ヶ所でしたが、放課後児童健全育成事業が施行された1998年には9,627ヶ所となり、さらに10年後の2008年には17,495ヶ所になっています（事業数は、全国学童保育連絡協議会の調査による）。

このように学童保育が急増してきた背景には、共働き・ひとり親世帯比率の増加、自ら共同学童保育をつくり国や自治体に制度化を求めてきた保護者の運動、自らの仕事を子どもの発達保障を担う仕事として位置づけ自己形成してきた学童保育指導員の実践や運動、そして財界が求める雇用慣行や少子化への対応を進める国・地方自治体の政策等があると考えられます。

しかし、この事業の量的拡大や施策の推進のなかで、学童保育の内容・方法、施設・設備や定員・職員配置などの最低基準、学童保育指導員の身分・労働条件や専門性の保障等が考慮されることはほとんどありません。とりわけ大規模化した施設においては子どもの安全を守ることもできない状況も生まれています。また、いくつかの自治体においては、対象児童を「保育に欠ける」児童であるか否かを問わない余裕教室等を活用した事業に学童保育事業（放課後児童健全育成事業）を吸収・統合させようとする動きもあります。さらに、大都市部では、企業による「学童保育」ビジネスや駅前学童保育が展開されはじめています。

こうした状況に対して、自らの実践を対象化し科学的に探求しようとする学童保育指導員の取り組み——実践記録を綴り集団で討議する実践研究、学童保育指導員の職務内容やその専門性を明らかにしていこうとする研究者との共同研究、研修カリキュラムの開発等——が各地で実施されています。また、学童保育における保育の内容・方法にかかわる指針・ガイドラインづくり、施設整備や保育条件のナショナル・ミニマムに関する議論、学童保育指導員の資格についての議論等も各地の指導員集団や地方自治体において進められています。このような動きの中で、指導員集団や地方自治体から、学童保育を対象とする学問的な研究の必要性が強く求められるようになってきました。しかし、これまでの学童保育研究は、学童保育の運動組織が様々な領域の研究者に協力を要請し、依頼する形で行なわれるものがほとんどでした。また、学童保育についての研究成果を発表しようにも、既存の学会等においては発表する機会も著しく限られていました。したがって、運動論、実態調査や学童保育実践の方法や内容にかかわる研究に比べると、歴史研究や国際比較研究の蓄積は乏しく、学童保育の原理や本質にかかわる理論化もほとんど手つかずのままになっています。

近年、学童保育をテーマとする卒業論文や修士論文、研究紀要や学会発表などにおける研究成果も次第に増えてきました。また、「学童保育指導員専門性研究会」（研究誌『学童

保育研究』(年刊))のように「指導員の仕事内容や役割・資格問題など指導員の専門性」の理論化を目的とする研究運動が実践家と研究者とによって組織されています(2000年発足)。こうした新しい学童保育研究の息吹をどのように発展させていくかが問われています。

そこで、私たちは、以下のような研究課題を担う学童保育に関する学術的な組織が必要であると考えに至りました。

- ・ 学童保育の原理や本質に関する研究
- ・ 学童保育実践研究……学童保育の内容や方法に関する研究、学童保育における遊びと指導に関する研究、学童保育指導員の業務や専門性を明らかにしようとする研究
- ・ 学童期の子どもの身体・精神・心理に関する研究
- ・ 障がいのある子どもの放課後ケアや学童保育に関する研究
- ・ 学童期の子どもが育つ家族・生活圏・地域・放課後に関する研究
- ・ 児童館や地域子ども組織との関連、保育所・学校やその他諸機関との連携に関する研究
- ・ 学童保育の運動・法制度・政策に関する研究
- ・ 学童保育を含む子ども・家族政策や子育て文化の国際的比較
- ・ 学童保育施設や学童期の子どもの環境デザインに関する研究

こうした領域の理論的活動をふまえ、学童保育指導員の研修のカリキュラムやテキスト作成の課題、研修機関における教員養成・認定の課題、資格認定機関の組織化の課題にも、今回構想する組織がどのように応えていけるのかを追求してみたいとも考えています。

そのためには、教育方法学や生活指導学、社会教育学といった教育学の知見はもとより、医学、心理学、社会学、社会福祉学、さらには建築学や環境デザイン学の知見が必要になります。もちろん、経済学や社会政策学など社会科学、歴史研究や国際比較などの研究に支えられなくてはならないことはいまでもありません。学際的で幅広い専門分野にわたる研究者の知見と共同が必要です。

また、学童保育実践の理論化の担い手は、職業的な意味での研究者に限られたものではなく学童保育指導員が実践的な研究者として、その役割を果たすことも求められています。

そこで、私たちは「日本学童保育学会」(仮称)の設立を構想し、その具体化にむけて準備会を立ち上げることにしました。この準備会では、学童保育に関する研究発表や研究交流、テキストづくりにむけた集团的検討等の研究活動を展開しながら、多様な分野から多くの研究者の協同と創意によって「日本学童保育学会」(仮称)のあり方や具体的な活動について検討していきたいと考えています。

学童保育の未来を科学の光で照らしうる学術団体「日本学童保育学会」(仮称)創設のために、本準備会への積極的な参加をお待ちしています。

